

柄沢憲司君 木宮さんの卓話楽しみにしてます。

大野新吉君 木宮さんの卓話楽しみにしております。ボックスに協力して。

佐藤文夫君 ボックスに協力、木宮さん卓話ががんばってネ。

今井克義君 “桜もち” もどきのデザート、感激です。やはり「花よりダンゴ」です。但し甘い物を食べた後は、キシリトールガムで中和しましょう。

山本充君 BOXに協力します。

山口竜二君 久しぶりの例会です。

ロータリー財団：

樋口金占君 外孫長男、内孫長男2名大学入学

佐藤啓策君 次女が大学を卒業して就職し、長男が大学に入学をしました。ようやく金食虫が一尾減りました。木宮さんの卓話を期待しています。

長谷川博一君 娘が1人は新潟中央短大に合格しました。もう1人は浜松聖隷短大を無事卒業しました。

山上茂夫君 お陰様で7日朝早く花が届きました。66歳の花かと思うと早く山吹の花にも実をつけなければと思いました。若い人々に期待して。

卓話：「どうなる日本の農業」 木宮 隆会員



日本で稲作が始まったのは弥生時代と言われています。以来、米は日本人の主食として、食文化の中心的役割を担ってきました。

江戸時代は武士の俸給は米をもって支払われ、米が貨幣にリンクしていた俗に言う“米本位制”の時代でした。

稲作は又、農家を土地に縛りつけ、氏族的純血と閉鎖性を農村に浸透させ、独特な“ムラ社会”が形成されました。“全てお上のおうせのままに”といった保守的で変化を嫌う農家の物の考え方、意識の根底にはこんな歴史的背景が見え隠れしています。

ところで、終戦直後の食糧難の時代に全人口の6割を占めていた農業就労人口も、現在では全人口の3%足らずの400万人弱となってしまいました。又、米の消費も食生活の変化、なかんずく洋風化、多様化により年々下降線をたどっています。生活が貧しく、エンゲル係数の高かった時代に育った我々団塊の世代の中には、ご飯と味噌汁を食べないと食事をとった気がしないという人も多いと思います。しかし、現代っ子の食生活は朝はパン、昼は麺類、ようやく夜になってご飯を食べるといった調子です。しかも、炭水化物は夜食べると燃焼せず全部贅肉となり肥満の原因になるとか、やれ血糖値が上がるとかで、気軽に“おかわり”もできないありさまです。ドカ弁、日の丸弁当という言葉がノスタルジックに聞こえます。

かくして、米の総需要は年々下降し、現在では年間700万トンのレベルに迄落ち込んでしまっ

います。それに反し、米の生産量は機械化、大規模化あるいは品種改良などの結果、飛躍的に増大し、仮に減反をしなければ、ゆうに1000万トンを超える水準になっています。この様な米余り現象に対し、国は過剰米の買い支えができず、ウルグアイラウンド等折からの自由化を求める外圧の高まりの中で、永年聖域視してきた食管法を放棄し、米も他の農作物同様、市場経済の洗礼を余儀なくされることとなりました。

新食糧法が施行されて今年で5年目になると思います。食管法のもとでは米は収穫した全量を国が買い取ってくれると言う夢のようなシステムが大手を振ってまかりとうっていたわけです。しかし、現在では自分で作った物は自分で売らなければならない時代になりました。収穫した米の処分に関しては一顧だにする必要がなかった人達が、一夜あけたら買い手を自分で探さなくてはならなくなったのです。農家にとってはまさに青天の霹靂……大部分の農家は途方に暮れた訳です。結局、農協が国の肩代わりをして農家に代わって米の代行販売をして、当座をしのいでいるのが実状です。

国は国際競争の時代を生き抜ける足腰の強い自立型中核農家を育成するというスローガンの下、新農政をスタートさせました。しかし、現実に新農政下で実施された事と言えば減反政策……工場と言うところの生産調整だけです。米価対策として昨年国会を通った共済制度にしても米価の暴落を初めから予測しているような奇妙な制度で、農家の“ヤル気”を喚起し、農業の明日を示す施策とはどういえないのです。米の需給バランスのギャップが生じる根本原因にメスを入れず、小手先だけの対処療法を続ける限り農業に明日は無いと言っているでしょう。

今や世界の人口は60億人。しかも、その三分の二は飢えていると言います。発展途上国の人口は爆発を続け、21世紀には食糧問題は益々深刻化するという現実を前に、食糧自給率を下げ続けるというのは自殺行為に等しいとは思わないのでしょうか。ODAでダムを造るのも結構ですが、食糧危機に見舞われている国々に何故余剰米を援助できないのでしょうか。国をあげて主食である米飯を奨励し、せめて学校給食ぐらいは全て米飯給食にするというわけにはいかないのでしょうか。子供の頃の食感は大人に必ず受け継がれます。我々団塊の世代がご飯と味噌汁にこだわるのも子供の頃の食生活の影響からなのです。食糧安保論議を持ち出すつもりはありませんが、近年ではアジア諸国の食生活の向上に伴い、飼料作物への需要が増大し、米など穀類の作付け面積が減ってきています。事実、4年前の米不足の時、緊急輸入された中国米を現在の中国に求めることはできません。中国はすでに米の輸入国になっているからです。わずか4年の間に世界の穀物市場の状況は一変しているのです。肉食が増え、飼料作物の国際相場が上昇すればカリフォルニアローズ（アメリカの寿司バーなどで人気の高級銘柄。コシヒカリも顔負けの食味を有する。）を栽培した田んぼもトウモロコシ畑に姿を変えてしまうのです。

金融ビッグバンの導入に際し、“企業ではなく市場を守る”と大見栄を切った政府ですから、農業についても思い切った決断をする時ではないでしょうか。確かに、農業問題には多くの困難な障